「学びの質を高めるための指導と評価の充実を目指して」
～学習評価の捉えと改善～

校内研究のまとめについて

研究主題（R３・４・５年度）

「学びの質を高めるための指導と評価の充実を目指して」
～学習評価の捉えと改善～」

- 「指導と評価の一体化」
- 育成を目指す資質能力の３つの柱を目標とした学習計画
- 学習評価の充実「何が身についたか」「実施するために何が必要か」

拡大研究部会において指導計画等書式の検討

３つの柱での授業づくり・三観点での評価

各授業の学習内容の整理・精選

教職員の指導力・専門性の向上

１年次
３つの柱に基づいた個別の指導計画様式案の検討・作成し、個別の指導計画新様式を試行し、課題点を出し改善する。

２年次
各学部の教科の評価規準や項目などについて検討し、各教科の単元等を全体的に捉える。また、観点別のねらいと内容を記載した授業の指導案（略案）を作成し、授業後に反省・評価をして指導内容を整理し、授業の改善を図っていく。

３年次
2年次の取り組みを受け、個別指導計画の授業評価への活用及び評価規準を受けての評価基準の設定により妥当性を高めていく。

小学部

・実態別学習グループごと大切にしたいことの共通確認

・丁寧な実態把握と単元計画作成により児童にとっての目標の明確化、授業展開のメリハリ

・ 教師間の理解のすり合わせ、「できた」「手立てがあってできた」「もう少し」といった評価の段階の共有

・集団授業の意味合いについて深く考え、その特性を生かした授業づくり

・児童の特性や学びの様子から授業改善、グルーピングの再考を含めた指導方法の模索

中学部

・丁寧な実態把握を行い、より個に応じた指導、生徒の主体性を高めるような指導方法の発見

・評価の話し合いを通しCTとSTの視点を共有化、より、生徒の実態に合わせた指導の展開

・生徒の評価から授業の評価へつなげることによりわかりやすい授業展開へ

・単元計画の評価規準の設定により生徒の学習段階における学びの整理、次に必要な学習についての目標設定が実現

・評価規準の明確化により生徒の学習意欲の向上

高等部

- 育成を目指す資質能力の３つの柱の理解から本校の生徒の学習活動、指導目標や内容へ

・実態把握調査表より、学習の基盤として考えた６つの項目について整理、職業Ⅱの授業における「身につけさせたい力」

・授業を通し指導の共通化、職業Ⅱにおけるめざすべき姿に関し教師で目標に対する共通認識

・単元の目標より評価規準に対する評価、「どのような指導や支援でどのようにできたのか」、また、「どこが難しかったのか」を具体的に挙げながらの授業改善　これらを通し授業の質を高め、指導の整理へ

寄宿舎

・PDCAサイクルシートを用いた実践による主体的な生活に向けての取り組み

・「伝える力」に着目し「何を伝えたいか」「どのように伝えるか」について舎生自身の振り返りと支援の整理

・短期間での支援のサイクルにより舎生に対してねらいや改善点がより明確化

・舎生の内面に対する理解、日々の生活指導につなげる実践を通して、指導員一人一人の舎生についての捉え方や見方について意見交換。これらより舎生の新たな気付きや指導の視野を、指導員の専門性の向上へつなげた。

研究目標

（１）指導と評価の一体化に向けて、児童生徒の学習評価に焦点をあてた評価の在り方について検討し、各種様式の検討を含めた評価方法の再構築を行う。

（２）新学習指導要領にもとづいた学習内容、指導方法、評価について検討し、授業改善を図りながら児童生徒の質の高い学びを目指す。学習内容を整理し１２年間の系統性をもたせた指導につなげる。

（３）授業研究を通して、授業の質や教職員の授業力を向上させる。また研究内容について学校全体で共通理解し、教職員の指導力と専門性の向上をめざす。

①指導計画の活用と
「次の段階を見据えた指導」の展開

単元計画の作成より「いつ」「誰が」「どのように」学びの様子を見て、「できた」と評価をするのかについて整理して考え、授業を展開できる。

単元の中での児童生徒のより具体的な行動を根拠に評価を行うことでより、その妥当性が高まる。

次の指導を見据えることができ、児童生徒にとってより質の高い学びの展開が可能。

②授業記録の重要性と評価方法の工夫

様々なシート、ICTの活用など
多様な記録の取り方

評価基準にもとづいた話し合い
動画を見返しての振り返り

評価基準に即した記録を残すこと

記録は簡潔であること

話し合いの視点をもつこと

学びの質を高めるための学習評価について

a.実態把握は授業に係る教師の複数の視点で行い、単元目標が児童生徒にとって達成感の得られるものであること。そして単元の目標より具体的な行動を評価規準に取り入れ、評価に客観性をもたせること。

学びの質を高めるための学習評価について

b. 評価規準は授業者間にてあらかじめ確認し、同じ視点で指導し、その後評価のすり合わせを行うこと。

学びの質を高めるための学習評価について

c.他授業の評価基準も参考にし、多面的な視点で評価を行うこと。

今後の課題

「１２年間の系統性」という視点

１２年間を見据えた指導のつながり、単元計画や内容のまとまりごとでの指導と評価を行っていく中で「学び残し」をどう見取り、扱っていくか

今後の課題

校内研究の中でできること…

まずは児童生徒の学びの状況の整理、自分の指導がどこへつながっているか意識していく（一歩引いた視点で指導を捉える）

今後の課題

校内研究の中でできること…

学校全体で学習の様子や児童生徒の実態等を共有していくこと、そして他学部の取り組みと自分の指導のつながりについて考えていけるとよいか。

今後の課題

校内研究の目指すところ

学校教育目標の具現化

どこに焦点を当てていくか？

ご清聴ありがとうございました

令和6年　2月20日
第4回全体研究会
研究部